

業種・食品種類	水産加工	売上規模	10～30億円未満
効率化工程	生産工程		
効率化	後工程, 機械・ロボット, 人材育成		

水産食料品製造業	宮崎県
----------	-----

手作業で行っていた製袋・梱包工程を機械化し人員を削減。KPI（評価指標）を設定し人時生産性向上を着実に推進

■ 従業員の状況

従業員数		従業員の部門別構成比		
正社員・契約社員	パート・アルバイト	製造部門	間接部門	その他
60名	88名	80.0%	20.0%	-

■ 生産関連の状況

生産量／稼働時間	生産量	工場稼働時間
	9t／日	8時間／日

コスト構造 構成比	原材料費	人件費	減価償却費	その他
	50%	22%	6%	22%

製造工程における 設備・機械対応比率	製造工程		
	[原材料投入から製品完成まで]	うち、設備・機械対応	
	5	1	20.0%

設備・機械担当人数	設備・機械担当者計 [メンテを含む]	設備・機械メンテ 担当者	機械・設備導入・ 整備選任	その他
				担当 -
現状	15 人	2 人	2 人	11 人
5年前	15 人	2 人	2 人	11 人

！生産性向上におけるPoint

- ✓ 製造ラインの老朽化が進む中、ボトルネックであった包装機械の入替により生産性を向上
- ✓ 基幹システムを刷新し、従来のシステムで嵩んでいた運営コストの削減と、業務管理の一元化による効率化を実現。システムの更なる活用により業務効率化を推進

人手不足に対応するため、製造効率向上を最優先課題として取組を推進

同社は冷凍食品のOEM（他社からの受託生産）を中心に事業を展開している。製造ラインの人手確保が困難な中で、製造効率向上を最優先課題としている。

また、冷凍食品業界が円安に伴い海外生産から国内生産、輸出へシフトしていることもあり、同社も国内生産回帰の動きを捉えて設備投資を推進している。

製袋・梱包工程に機械を導入、梱包工程の人員を3人削減

2023年度～2024年度にかけて製袋・X線検査・梱包の一連の工程のライン化を推進している。従来は手作業で行っていた製袋工程にピロー包装機（筒状のフィルムで製品を包み、シールすることで包装する機械）、梱包工程に自動製函機（自動で段ボールを組み立てる機械）を導入した。これにより梱包工程の人員を2023年度の7人から2024年度には4人に削減した。

人時生産性の向上へプロジェクトを展開、数年以内に週休3日の実現目指す

2024年度から製造ライン全体における人時生産性の向上を図るプロジェクトを展開している。KPI（評価指標）を設定して取組を進めた結果、2023年度実績の1時間当たり9.02kg／人から2024年度は9.12kg／人まで向上した。2030年度までには9.20kg／人を目指す。この他、工場スタッフの残業時間が前年同月比で約1割減少した（2024年10月単月）。

人手不足が継続し働き方改革への取組が求められる中、同社は今後数年以内に月に1度の週休3日を実現する意向で、そのためにも人時生産性の向上が重要と考えている。

今後はペーパーレス化を推進、紙帳票の保管スペースを有効活用

来期はペーパーレス化の促進に取り組む計画で、現在、委託先のITベンダーを選定中である。ISOやHACCPといった認証を取得済の食品製造事業者は多数の紙帳票を作成、保管しているが、デジタル化することで保管スペースを別用途に有効活用することを目指している。